

平山HD、労災をAIで予防

製造業向けのコンサルティングサービスを手がける平山ホールディングスは、工場などで働く作業員の労働災害を防ぎやすくする新サービスを始める。独自開発した人工知能（AI）を活用し、就業前に実施する簡単なテストで作業員の心身など状態変化を計測する。状態の変化が大きい作業員などを重点的に警戒することで、重大事故につながる行動を抑制する。

新サービス「H A i o（ハイオ）」は、就業前の作業員に数問のアンケートを実施。体調や気分を尋ねる質問のほか、カードやイラストなどを探すゲームなども用意する。作業員には回答状況に応じて内容の異なる5〜6種類のアドバイスを用意。ゲームでは回答の早さなどのデータを一定期間集計し、変化が起きた際には現場の責任者などにメールなどで注意を促す。

厚生労働省によると、製造現場では毎年10万件を超える労災が発生しており、原因の大半が作業者の危険な行動に原因があると言われる。平山HDでは派遣する約2000人の作業員で実証試験を始め、しており「危険な行動を抑制する一定の効果が期待できる」（同社）という。新サービスは月に1人税別600円で提供する予定で、1年間で1万人の利用を見込む。